環境に配慮、試験導入

段ボールで鮮魚保冷

氷見フィッシャーマンズワーフ海鮮館

氷見市の氷見フィッシャーマンズワーフ海鮮館は十六日までに、観光客が購入した刺し身や鮮魚を詰める、段ボール製の保冷箱を導入した。従来の発泡スチロール製の箱と保冷効果は変わらず、紙のため、地球温暖化対策になるとしている。海鮮館では好評ならば、冬場のフクラギなど大きめの魚用の箱も作りたいとしている。

保冷箱はジャパンパック（滑川市）が開発した新商品で、段ボール箱の内側にアルミフィルムなどを使用したシートを張り、保冷と防水を可能にした。

海鮮館では、県内の主要スーパーで、地球温暖化防止でレジ袋が有料化されたことを受け、自社の環境対策について検討してきた。これまでも、発泡スチロール箱の再利用に取り組んできたが、試験的に段ボール製の保冷箱三百箱を導入した。

価格は一箱四百円で、発泡スチロール箱と価格や保冷効果は変わらない。鮮魚販売を担当する浜井祐雄さん（六六）は「折り畳め、バッグ感覚で使える。燃やすと高熱の出る発泡スチロールに比べて、ごみ処理施設も傷めず、環境に優しい」と利点を話している。

氷見市の氷見フィッシャーマンズワーフ海鮮館は十六日までに、観光客が購入した刺し身や鮮魚を詰める、段ボール製の保冷箱を導入した。従来の発泡スチロール製の箱と保冷効果は変わらず、紙のため、地球温暖化対策になるとしている。海鮮館では好評ならば、冬場のフクラギなど大きめの魚用の箱も作りたいとしている。

保冷箱はジャパンパックが開発した新商品で、段ボール箱の内側にアルミフィルムなどを使用したシートを張り、保冷と防水を可能にした。

海鮮館では、県内の主要スーパーで、地球温暖化防止でレジ袋が有料化されたことを受け、自社の環境対策について検討してきた。これまでも、発泡スチロール箱の再利用に取り組んできたが、試験的に段ボール製の保冷箱三百箱を導入した。

価格は一箱四百円で、発泡スチロール箱と価格や保冷効果は変わらない。鮮魚販売を担当する浜井祐雄さん（六六）は「折り畳め、バッグ感覚で使える。燃やすと高熱の出る発泡スチロールに比べて、ごみ処理施設も傷めず、環境に優しい」と利点を話している。

段ボール製の保冷箱について説明する浜井さん＝氷見市の氷見フィッシャーマンズワーフ海鮮館

富山新聞　平成２０年５月１８日号

段ボールで鮮魚保冷　環境に配慮、試験導入
氷見フィッシャーマンズワーフ海鮮館

氷見市の氷見フィッシャーマンズワーフ海鮮館は十六日までに、観光客が購入した刺し身や鮮魚を詰める、段ボール製の保冷箱を導入した。従来の発泡スチロール製の箱と保冷効果は変わらず、紙のため、地球温暖化対策になるとしている。海鮮館では好評ならば、冬場のフクラギなどの大きめの魚用の箱も作りたいとしている。

保冷箱はジャパンパック（滑川市）が開発した新商品で、段ボール箱の内側にアルミフィルムなどを使用したシートを張り、保冷と防水を可能にした。

海鮮館では、県内の主要スーパーで、地球温暖化防止でレジ袋が有料化されたことを受け、自社の環境対策について検討してきた。これまでも、発泡スチロール箱の再利用に取り組んできたが、試験的に段ボール製の保冷箱三百箱を導入した。

価格は一箱四百円で、発泡スチロール箱と価格や保冷効果は変わらない。鮮魚販売を担当する浜井祐雄さん（六六）は「折り畳め、バッグ感覚で使える。燃やすと高熱の出る発泡スチロールに比べて、ごみ処理施設も傷めず、環境に優しい」と利点を話している。